

ピティナ40周年記念 ピアノ・コンチェルトのタベ

~NHK交響楽団、指揮は渡邊一正

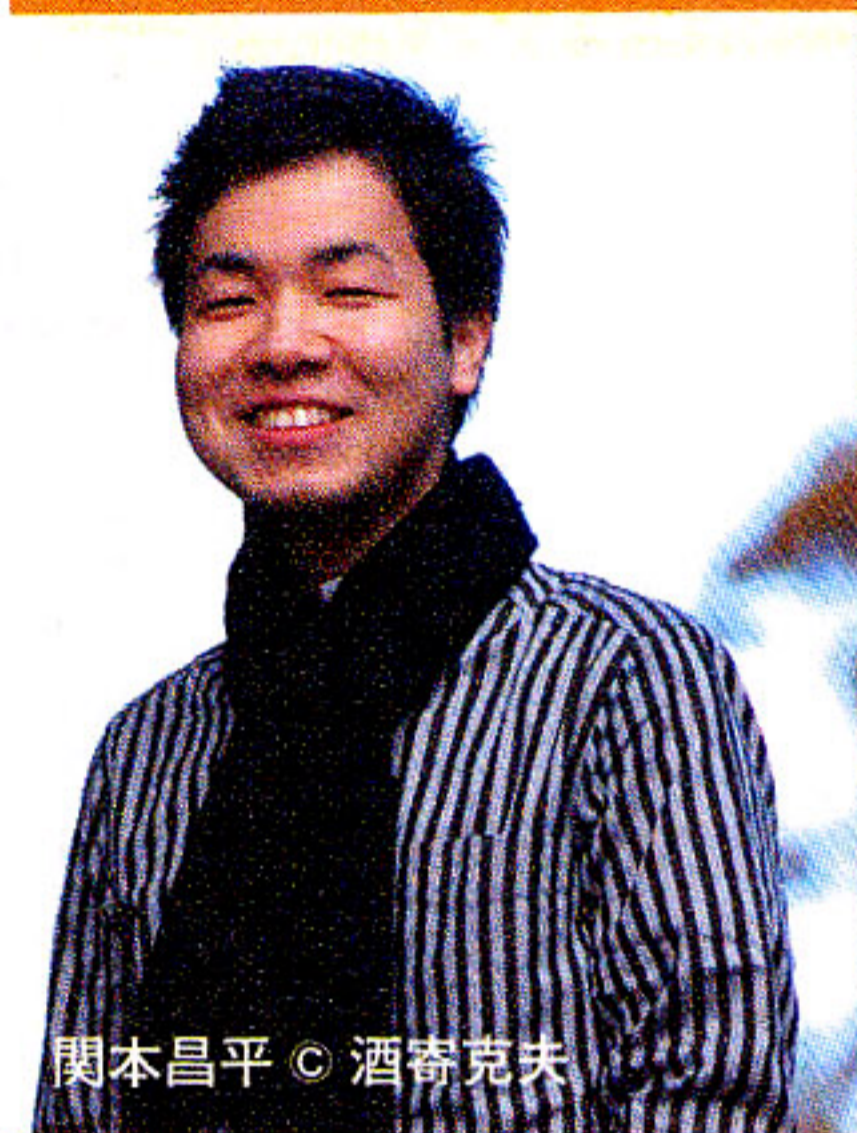
リスト、ラヴェル、ラフマニノフの難曲ズラリ!

宮沢昭男◎音楽評論家=文 text by Akio Miyazawa

「ピティナ」とは、社団法人全日本ピアノ指導者協会のこと。創立40周年を迎えた。渡邊一正の指揮するN響とともに、それを記念したピアノ・コンチェルトのタベである。ピアノのヴィルトゥオーソによる作品がズラリ3曲並ぶ。いずれ劣らぬ超絶技巧の大曲に聴き応えも十分だ。3人のソリストに注目したい。リストの第1番変ホ長調はけっして長くない。だがそこに盛られたリストならではの華々しさに、聴き手は終始、手に汗握る勢いに見舞われる。ソロの須藤梨菜は現在大学生。国内外のコンクールで入賞を果たし、リサイタルを含む演奏活動もすでに国内外に及ぶ。リストの強面のする第1番をN響と渡り合い、どう火花を散らすか。聴きどころ満載だ。

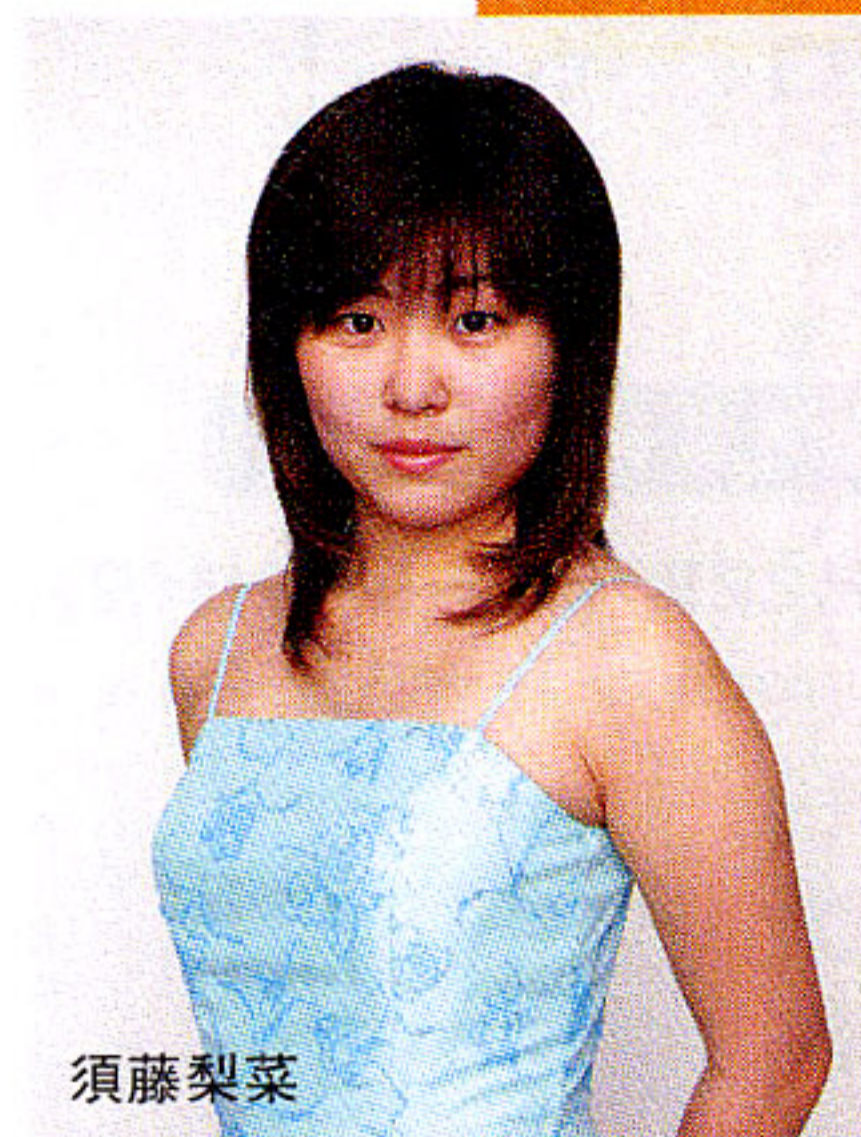


金子一朗



関本昌平◎酒寄克夫

ラヴェルのト長調の協奏曲は熱狂の塊だ。それはジャズの精神を盛り込む革新的な音楽である。ソロの金子一朗は本職が数学教諭。だがすでに演奏経験も豊富で、東京フィル、日本フィル、東京交響楽団と演奏し、テレビ出演も果たす異色のピアニストである。年齢的にもすでに中堅に加わり、ラヴェルの放つ多彩なリズム表現を存分に味わいたい。ラフマニノフは第3番二短調。ロシア・ピアノリズムの系譜ラフマニノフは、ラヴェルと時代を共有しながら、その豪快さと豊富な旋律、そして甘く漂う曲想が彼とは対極的である。演奏する関本昌平は05年、シヨパン国際ピアノコンクール第4位に輝いた。同曲の華麗さと染み入る曲想で魅惑するに違いない。



須藤梨菜

公演情報

3月28日(水) 19:00

サントリーホール大ホール

詳細P.89